

救急外来受診の手引き①

—子どもの夜間休日の救急受診について—

公立世羅中央病院 小児科部長 小松 弘明

子どもは急に体調が変わることが多く、救急での受診を考慮することもあるでしょう。しかし、救急外来での診察・治療は思い通りにならない事も多く、可能なら翌日の小児科外来まで受診を待つのは良い方法です。では夜間休日はどうすればよいでしょうか。

まず、風邪（インフルエンザや嘔吐下痢症などのウイルス感染症）かどうか考えましょう。風邪と思われる場合は急いで受診する必要は少ないでしょう。

次のような薬を常備しておき、使った症状を和らげるのもよいでしょう。

- ・解熱剤
- ・咳止め

（喘息のある子では気管支拡張薬入りのもの）

- ・吐き気止め

逆に「風邪ではない」と思う場合には急を要することがあります。受診を考えましょう。

原因に関わらず、症状が悪化していくと感じる場合にも受診を考えます。

例えば症状別に考えると

- ・生後3カ月までの赤ちゃんの体調不良 受診を考えます
- ・発熱 他に異常がなければ様子を見てもよいでしょう。
- ・けいれん／意識がおかしい（救急車で）受診します。
- ・咳 喘息やクループ（犬吠様の咳や吸気時のゼイゼイなど）には注意が必要です。息苦しい時は受診を考えます。

逆には急を要することがあります。受診を考えましょう。

原因に関わらず、症状が悪化していくと感じる場合にも受診を考えます。

- ・嘔吐・下痢 一時飲食を止めて胃腸を休めます。痛みや出血の有無、尿にも注意しながら様子をみます。
- ・痛み 痛む場所とその原因を考えます。他の症状に注意しましょう。解熱剤は鎮痛剤としても使用できます。
- ・発疹 判断が難しいので翌日の小児科・皮膚科受診がよいでしょう。全身に広がる尋麻疹などでは受診も考えます。

子どもはうまく自分の症状を訴えられませんが、「見た目」や「何となく」はとても大切です。いつもと違って何か悪い感じがする、と思う時には救急・重症の場合があるので受診をためらわないでください。

(図1 小児科電話相談)
#8000 又は 082-505-1399
19:00~8:00



(図2 online子ども救急)
<http://www.kodomo-qq.jp/>

